

NO.	施策の柱	分類	コメント	提出委員	カテゴリーNO.
1	全般	意見	・少子高齢化の進展や東京オリパラの開催、緑化協定の変更等、新基本計画策定後の社会情勢や政策変更により見直しが必要となる事業については、新たな目標や方向性を見直しをすべきでは。	河野委員	①
2	全般	意見	多数の指標を全て同列に扱うのではなく、市として重視するものや市民アンケートの結果などをもとに、重視する主要指標とその他の指標に分類し、それぞれの結果に基づいて評価を行ってはどうか。	山田委員	①
3	全般	意見	複数の指標に関係する大きな事業の事業費については、その指標の向上に資する細目単位に分けるほうが望ましい。厳密な仕分けは困難であろうと思われませんが、なぜ達成できないのか、どのような施策が不十分であったかが分かるような対応が望ましい。	岡本委員	①
4	全般	意見	評価の数値が分かりにくい。5段階の評定尺度値があるものについては、そのまま数値に置き換えて、平均値を取ったほうが良い。	岡本委員	②
5	全般	意見	中間評価は、目標達成に向けた進捗状況をチェックするのが優先です。達成状況を率によって指数化する方法は誤差を拡大し、更に少ない指数から算術平均値を出すことで更に誤差を拡大させます。進捗状況(%)のまま活用することでのよいのではないのでしょうか。	山田委員	②
6	全般	意見	評価基準、評価方法について： 指標の加工過程が複雑で分かりにくい。(達成率→カテゴリー化→点数化して柱ごとの平均値→カテゴリー化) 最初のカテゴリー化で評価に歪みが生じる可能性がある。 即ち、目標値の達成状況によって-1,1,3,5のカテゴリーに分けているが、値の僅かな違いで2点の開きが生じるため、達成率の平均値とは逆転した評価区分ABCDEになってしまう可能性がある。(例えば、柱1の達成率の平均値は柱2より上であっても、柱1の評価がC、柱2の評価がBになる等)	芦沢委員	②
7	全般	意見	評価基準、評価方法について： ABCDEの定量的な意味が分かりにくい。例えば「Cは平均点が1.5以上3.0未満」という表現を見ても達成度が直ぐには分からない。「分布目安」を的確に表現することは困難。 「中間評価・説明文」の記述、即ち「充分、かなり、順調に、あまり・」等の表現は、定量的な意味が不明確で誤解が生じやすい。例えば、平均達成率が6割弱の柱の点数は1で「D・あまり成果が現れていない」という表現になるが、殆ど進捗していない印象も生じる。	芦沢委員	②
8	全般	意見	評価方法の改善案： ① 初めに、目標値の達成度によって次の評価をする。 ◎：現状値が目標値以上 ○：現状値が基準値以上、目標値未満 (△：現状値が基準値未満であるが近年は伸びている) ×：現状値が基準値未満 ② 次いで、施策の柱別に次のように評価する。 A：全ての指標が◎○、かつ指標の半数以上が◎ B：全ての指標が◎○、かつ◎は半数未満 C：半数以上の指標が◎○ D：過半数の指標が×△ この方法の利点 * A,B,C,Dの意味が明確 * 指標が伸びているか否かを中心に評価しているので目標値の設定の手堅さ・挑戦性に大きく左右されない。 * 各柱別にあまり細かく評価する必要はない。評価はこのように4段階程度でよいのではないかと。	芦沢委員	②
9	全般	意見	中間評価は、目標達成に向けた進捗状況をチェックするのが優先です。ひいては中間評価における評価区分については、目標達成状況を表す表現、たとえば「目標を達成した」「目標達成に向け相当の進展が見られた」「目標達成に向けた進展は十分ではない」「目標に向かっていない」など見直しは如何でしょうか。	山田委員	③

NO.	施策の柱	分類	コメント	提出委員	カテゴリー NO.
10	全般	意見	目標値設定が難しい項目が散見される。具体的に、目的に応じて政策的取り組みを行い、その取り組みの成果として推定される目標値の設定というストーリーが必要ではないか。	岩崎委員	③
11	全般	質問	評価結果を踏まえた目標値の見直しは可能でしょうか。可能では無い場合、見直しの必要性についてどのように考えていますでしょうか。	山田委員	③
12	全般	意見	取り組みが直線的に数字につながる領域もあるが、市民の印象(市内の花や緑は豊かだと感じる・・・等)の目標値設定や数値化は難しく感じる。意識ではなく行動レベル(行く、ある等)の指標設定が望ましい。	岩崎委員	③
13	全般	意見	生活実感・行動指標はいわゆる主観指標です。基本的に主観指標は、満足度など客観指標では測定が困難な場合に補完的に用いられます。中間評価の場合は、事業の進捗状況に主眼を置いて、主観指標は限定的に用いた方が効果的かもしれません。	山田委員	③
14	全般	意見	生活実感・行動指標に関しては、改善度を問う形式、たとえば「〇年前に比べて、市内の花や緑は豊かになったと感じますか」の方がよいのではないのでしょうか。	山田委員	③
15	全般	質問	目標値の設定はどのように行われているのでしょうか。全庁的に共通した指示や認識の下に行われているのでしょうか。若しくは基本的には、原局原課に任されているのでしょうか。	山田委員	③
16	全般	意見	目標値の設定には、期待値、充足値、限界値の3つの考え方があります。基本計画は長期計画であることから、目標は期待値であることが要請されることが多いのですが、中間段階での目標値はより現実性を重視した充足値であってもよいかもしれません。	山田委員	③
17	全般	質問	各部局は、具体的にどのような考えに基づいて目標水準の設定を行っているのでしょうか。	山田委員	③
18	2-5	意見	政策評価としての意味が分からない指標： 指標No.56「療育相談所での相談件数」(問題が多いと相談が多くなるという見方もでき、多ければ多いほど良いとは必ずしも言えないのではないのでしょうか。) 指標No.57「障害者相談支援事業での相談件数」(同上) 指標No.58「地域で生活するようになった障害のある人の数」(障害者の転入のみを計上するのでしょうか。高齢者等が事故や転倒等で障害者になってしまった場合はどうなるのですか？後者も入るならば、政策評価としての意味が分からなくなります。)	芦沢委員	③

NO.	施策の柱	分類	コメント	提出委員	カテゴリーNO.
19	全般	意見	<p>目標値の設定方法 より客観的な設定を工夫してほしい。例えば、 * 過去からの傾向に一定割合の上積み * 政令指定都市の平均 * 人口規模が同程度の都市の平均 * ただし、期待を込めた意欲的な設定もあってよい。 目標値の設定基準が各柱別に異なっていると、達成状況を柱別に比較する意味がない。 図1に見るように、基準値に対する目標値の伸び率は柱によってかなりの違いがあり、これを前提に各柱を評価する必要がある。</p> <p>図1. 基準値に対する目標値の伸び率 と評価点(柱別平均)</p> <p>↓ 目標値が低めのために 評価点が高く出た可能性</p> <p>↑ 目標値が高めのために 評価点が下がった可能性</p> <p>目標値が高めだが、達成度合が高い</p> <p>基準値に対する目標値の伸び率(%)</p>	芦沢委員	③
20	全般	意見	<p>評価の基本は比較です。比較の一つの観点が横断比較です。一部については別に指摘しますが、指標の絶対水準では優劣や現状が把握できないものも多くあります。については例えば、全国政令指定都市内順位や全国人口50万人以上の都市内順位など、相対的な状況が把握できるものはこちらを活用した方が、現状や今後の改善点が明確になる場合もあります。</p>	山田委員	③
21	全般	意見	<p>評価の基本は比較です。比較の観点のもう一つは時系列比較です。H23末現状値が比較の基準となっていますが、基準としての適否は分かりません。客観指標のように年単位で測定可能な指標については、H23-H26間の比較ではなく、複数年の指標値を測定し、時系列推移で値を比較した方が妥当性の観点から望ましいと思われま。</p>	山田委員	③
22	全般	意見	<p>現在の市民1万人アンケートの様式では、回答者が各施策毎に対応させる形で満足度と重要度を答えることができません。調査票の構成と形式は、この種の調査の先行自治体である群馬県太田市のものを御参考にされるとよいと思います。</p>	山田委員	④
23	全般	意見	<p>1万人アンケートの有効回答数は3,811件(平成26年度調査)となっていますが、統計的に見るならば、ここから得られた回答は信頼係数99%で標本誤差は±2%となります。これはこれで立派な数字ではありますが、実は有効回答数が現在の半分の1,850件でも信頼係数99%、標本誤差±3%で大きな差はありません。1万人という数字にメッセージ的な意味があるのでしょうか、効率性を考えると如何でしょうか。</p>	山田委員	④
24	全般	意見	<p>客観指標や生活実感はアンケートを踏まえ評価したとの事ですが、各アンケート集計で、性別・年齢・地域・施策を行った地域と行わなかった地域の等の考慮はされた集計を考慮していますか。</p>	遠山委員	④
25	全般	意見	<p>千葉市についての設問の疑問点： 「千葉市は花や緑が多いと感じる」等、千葉市全体への感じを質問しているものが多い。市当局としてはそれを知りたいであろうが、回答者としては、市の全域の状況を尋ねられているのか、身の回りの状況を答えればよいのか分からず、また全域の状況は分からず、非常に答えにくい。人によって、質問内容の受け取りに大きな違いが生じ、回答も違ってくる。「千葉市の都心の景観は…」 「居住地周辺の自然環境は…」と限定した方が答えやすく、対策も明確になる。</p>	芦沢委員	④
26	3-4	意見	<p>何を根拠に答えてよいか分からない設問がある。例えば、 指標No.148「市の国際的なイメージが向上している。」 指標No.92「外国人市民と日本人市民の互いの理解が進んでいる」</p>	芦沢委員	④

NO.	施策の柱	分類	コメント	提出委員	カテゴリー NO.
27	3-2	意見	意図が分かりにくい設問： 指標No.77「科学・技術に興味を持っている」に関して。 学びとしては、政治、経済、芸術、医学等、様々な分野がある中で、なぜ科学・技術のみを とりあげているのでしょうか？	芦沢委員	④
28	全般	意見	行政が主体的に実施する計画事業等については、実施計画に基づき推進されていることから 多くの事業が達成又は概ね達成しているものの、一部地域や路線といった局所的箇所での 事業となっている。このため、全市民には、その事業効果が感じられず目標達成に繋がって いないものがあるのではないかと。	河野委員	⑤
29	全般	意見	・賑わいのある海辺の創出など、今回の評価ではD区分であるが、今後の計画事業を推進す ることにより目標の達成が期待できる政策も多くある。 ・今回は、中間評価であることから、現状分析とその課題をしっかりと検証し、今後の取組みの 方向性をより具体的に示し、市民が将来の千葉市についてイメージできるように記載すべきで はないかと。	河野委員	⑤
30	全般	意見	「評価の理由と説明」欄については、目標達成状況だけでなく、①事前に想定できなかった 要因の分析、②未達成となった原因の分析、③達成手段の効率性、有効性の検証、④目標 の妥当性と見直しを行うことで、より踏み込んだ評価となります。	山田委員	⑤